

デジタルアーカイブの構築と技法



谷口知司 編著
晃洋書房 2014.4
214p. 2,400円(税別)
ISBN 978-4771025349

昨今、文化資料の映像・画像・データ類を、デジタルアーカイブを通じて利用することは、一般的にもごく身近になった。従来、図書館・博物館・文書館等(以下MLAと略す)は文化資料の保存・体系化・利用提供というアーカイブ機能を担ってきた。これらの存在が、収蔵品等をデジタル化して公開するといったデジタルアーカイブの構築・運営に中心的に携わる場面も増えている。本書の目的は、このデジタルアーカイブについて、その目的・意義・構築の手法等について整理し明確に提示することである。各章の執筆者は、アーカイブの研究者から企業や撮影技術等の実務者まで多岐にわたる。本書は、現在および今後のデジタルアーカイブの構築・運営を担う実務者に向けた、具体的で有用な書となっている。

第1章は概論として、デジタルアーカイブの概念およびこれまでの展開について解説している。デジタルアーカイブの対象が文化資料のみならず地域の暮らし、生活にまで範囲が広がってきたこと、および地域住民主導で作られる「運動としてのデジタルアーカイブ」等について述べている。一からデジタルアーカイブを構築する必要がある読者にとっては、アーカイブ構築の手順(1-4.)や国内のガイドライン(1-5.)が紹介された項目が特に有用であろう。

とかく特殊な専門用語の多いデジタル情報に関して、基本的な知識を得たい場合は、第2章・第3章が参考になる。第2章はデジタル情報のファイル形式や記録媒体の規格などの知識について扱い、第3章はスキャニングや撮影など情報取得の際に必要な知識について扱っている。

技術的な側面に特化した章は、第6章・第7章・第8章である。それぞれ「古文書・洋稀観書」「立体物」「動画」の記録について具体的な撮影手法や撮影処理について述べた章であり、アーカイブのためにそれらをデジタル化する場合は、その撮影時に参照できる。

技法的な側面に特化した章は、第10章である。証言の記録方法のひとつであるインタビューの技法に焦点を当てている。アーカイブにおいて、インタビューをコンテンツに含めようとする場合に参考になる。

また、著作物を扱う以上必須となってくる権利処理については、第9章で詳しく解説している。複雑に場合分けされる権利処理の流れをフローチャートで示し、権利処理について留意すべき点をまとめている。アーカイブの構築時には、この章のフローチャートを利用するなど、権利状況を逐次確認しておく必要がある。また、第4章でもコンテンツの権利処理について具体的かつ詳細に記述(4-4.)されている。第4章は、『NHK戦争証言アーカイブズ』というひとつのプロジェクトを通して、デジタルアーカイブの構成をどのように作成したか、事例に基づいた報告を行っている。報道機関の映像メインのアーカイブという特性上、元になるコンテンツの生成という観点からも執筆が行われているのが特徴である。

アーカイブ機能の担い手MLAにおけるデジタルアーカイブについて論じているのが第5章である。MLAそれぞれの資料の特性やメタデータの差異を可視化した上で、MLA資源の共有化というコンセプトに向けて必要になるデジタルアーカイブの視点について述べている。

最後の第11章は、東日本大震災に関するデジタ

ルアーカイブの展開と現状、および課題についてのまとめである。大規模災害を記録することの意義、そして必要な計画性について論じている。「大規模災害が起きる前に、それに備えたデジタルアーカイブ計画が必要」という言葉は現場からの切実な声であろう。

デジタル記録技術の進歩はすさまじく速い。本書に含まれる技術面の記述も、遠からず最新にアップデートされる宿命を背負っている。しかし、現時点での技術的ポイントをまとめてある本書は、デジタルアーカイブの展開を読み解く上で重要な価値を持つ。また、最後の課題として挙げられている「資料の情報化に対して確かな知識と技術の獲得を背景とした人材の育成」に関する議論のためにも、デジタルアーカイブに関わる実務者にとって必読の書となることを期待する。

目次

- 第1章 デジタルアーカイブの展開
- 第2章 デジタル化の基礎知識
- 第3章 情報取得(記録)にかかわる知識
- 第4章 デジタルアーカイブの構成
- 第5章 MLAとデジタルアーカイブ
- 第6章 古文書・洋稀観書等の撮影
- 第7章 立体物撮影
- 第8章 デジタルアーカイブの動画撮影
- 第9章 デジタルアーカイブの著作権処理
- 第10章 デジタルアーカイブのインタビュー技法
- 第11章 東日本大震災とデジタルアーカイブ

京都大学医学図書館

八木澤 ちひろ(やぎさわ ちひろ)